

# 魅力的な少林寺拳法

少林寺拳法 秋吉 好美



昭和16年生まれ、大分県出身。37年に第15期生として京都別院に入門。39年に少林寺拳法渋谷道院を、56年に多摩豊田道院を開設。外務省による専門家少林寺拳法団中南米派遣や日本武道代表団ジャパンウィークに参加。国内外で後進の指導に当たる。少林寺拳法大範士九段。

## 受章に寄せて

この度、はからずも武道功勞章という、荣誉ある章を賜り、誠にありがとうございます。このような立派な章は、もつと功績のある方がいただくものと思っていて、まさか私のような者が受章するとは、汗顔の至りであります。関係各位のご協力を改めて思い、感謝の気持ちでいっぱいです。

## 少林寺拳法への思い

振り返ってみますに、私の少林寺拳法との出会いは1962年、京都に勤務していたころ、散歩の途中に法輪寺の門前にあった少林寺拳法の看板が目にとまり、興味を持ったことでした。少林寺拳法発祥の地・香川から仏教の都市・京都に進出し半年を

経た時でした。道場を見学すると、中の雰囲気は活気にあふれ、圧倒されると同時に自分でもできるようなりたいと武者震いしたことを今でも思い出します。

入門願書をいただき、手続きを済ませ、正式に157期生として入門許可をいただきました。若冠二十歳の時でした。

入門式での創始者の法話は今でも鮮明に記憶しています。「少林寺拳法を始める君たちは、武道を修行している者として、武器と凶器の違いを理解して修行に励め」ということでした。最初は理解できませんでしたが、要するに器の使い方、自分を守り、弱者の味方になれるような強さと優しさを使う技術と、自分の名利を求めず行動の「正と邪」の説明でした。もう一つ心に残った言葉があります。

「力のない正義は無力なり、正義のない力は暴力なり」

この言葉はよく考えれば、世の中の出来事や自分の生活態度にも当てはまると納得したからです。

京都で二段を取得したあと、勤務先で東京転勤を告げられました。当時は夜行列車しかない時代で、夜中の旅立ちでしたが拳士仲間に見送られて出発し、東京でも少林寺拳法を続けると決心しました。

## 東京転勤

63年8月に東京勤務となり、後日、故内山滋先生のいる東京道院に転籍の手続きをし、許可をいただき稽古を続けることになりました。

ります。全国各地へ少林寺拳法の普及のため、助手として同行させていただき、非常に勉強になりました。大学の拳法部も少しずつ増加し、関東学生大会も後楽園ホールを皮切りに、千駄ヶ谷体育館、代々木体育館と年々規模を拡大し、隆盛が実感できました。大会開催時には模範演武を披露させていただきますました。

## 道院の開設

64年に渋谷道院を開設しました。現在は



渋谷道院当時の年末納会での演武会（中央が筆者）

廃院しましたが、当時は若い指導者のため技術面では少々ハードな修練を実施するも、全員が意気軒昂の思いがあり、道場に通う拳士は活気にあふれ、楽しく参加してくれました。当時の拳士は大学生が多く、夏休みともなると道場も閑散とし、若干の寂しさを感じるほどでした。

また、創始者宗道臣師の「人、人、人……全ては人の質にある」という法話と「武器と凶器からつながる人づくり」の教えを真似て、若者たちへ伝えてきました。人づくり、国づくりの精神で実践し、「自己確立」「自他共栄」の思想をいかにわかりやすく伝えられるかと悩んだ経験が、今の自分の基本姿勢になったと思います。

ある拳士から「母校でも少林寺拳法部を作りたい」との相談を受け、検討した結果、まず大東文化大学支部を設立、その2年後に学習院大学支部を創部しました。現在も学習院大学の監督として活動しています。

## 現在の活動

81年には地元の東京都日野市に多摩豊田道院を設立し、青少年育成団体として日野市体育協会に加入しました。協会行事として、春の総合開会式や東京都体育協会主催の総合開会式、秋の市民体育大会に参加し

てきました。また道院独自の行事として、夏季合宿を実施するなど、拳士間の融和と同志的絆の構築を図りました。89年4月から3期にわたり、東京都少林寺拳法連盟理事長に就任しました。東京都大会、全国大会などに種目を新設し参加拳士の増加を図り、普及活動に尽力してきました。現在はコロナ禍のため、思うような活動ができていません。一人一人が感染対策を万全にして安心して稽古ができるよう、一日も早い収束を願うばかりです。

しかし、見方を変えれば、技術ばかりではなく、宗道臣師の言わんとした教えをじっくり考える時間がとれたことも事実です。世の中をつくるのも人、運用するのも人。ならば正しく運用できる人づくりのための思想が必要です。技術的に正しい少林寺拳法の伝承を図るのが、拳士や指導者の役割ではないでしょうか。宗道臣師が創始した少林寺拳法が面白くて大好きです。でも難しい。こんな魅力ある少林寺拳法と向き合い、宗道臣師の思想と技法の真髓に少しでも近づくことができたらと思っています。この度の受章を機に再度、決意を新たに修行に励んでまいります。